

一般無償資金協力「国道1号線都心区間改修計画」に関する交換公文への署名

11月17日（月）、外務国際協力省において、隈丸優次駐カンボジア大使とハオ・ナムホン外務国際協力大臣との間で、「国道1号線都心区間改修計画」（供与額：2億5100万円）に関する交換公文への署名が行われました。

国道1号線は、首都プノンペンを起点に、ベトナム国境のバベットまでを結ぶ164kmの一般道であり、カンボジアの基幹道路を担っています。国境の先は、ホーチミンに接続しており、アジアハイウェイ1号線及び南部経済回廊の一部として、カンボジアのみならず、メコン地域の産業大動脈として機能することが期待されています。

日本は国道1号線の改修に関し、2005年から支援を開始しており、これまでネアックルン橋梁の位置する起点より56kmの地点から首都プノンペン近郊の4km地点までの整備を支援してきました。現在、4km地点から起点0km地点までを2つの区間に分けて改修計画が進められており、本事業は、0.45km地点から起点0km地点までの都心区間を対象としております。4.0km地点から残りの区間は、2013年12月に交換公文の署名を終えております。なお、今後整備されるこれら2つの区間は、2013年のプノンペン新港開港、2015年のネアックルン橋梁の開通、及び将来の周辺開発による大型車交通量の増大を見越して、新たに設計交通量の見直しがなされています。

式典では、隈丸大使がスピーチを行い、本プロジェクトがカンボジアの経済活動の向上及び国民の福祉に貢献するとともに、日本とカンボジアとの良好な関係が一層強化されることを期待する旨述べました。続いて、ハオ・ナムホン大臣より、日本政府及び日本国民への感謝の意を表明するとともに、国道1号線の改修が、国内外の道路輸送網として重要な役割を果たす旨、述べられました。

